

漢籍の目録・分類について

〈とき：昭和47年1月28日午後3時～5時 ところ：附属図書館会議室〉

京都産業大学教授倉田淳之助氏（前本学人文科学研究助教授）の「漢籍の目録・分類について」の講演があった。これは毎年約2回行なわれる図書館主催による講演会の一つである。この講演会は、従来では洋書・和書に関する講演会は比較的多かったが、漢籍に関するものは少なく、そのためか、約50名の参集があり、講演後には活発な質問も多く、きわめて盛会であった。

講演は、京都大学において倉田氏が、先に狩野直喜教授等の指導により、現在の人文科学研究所の前身であった東方文化研究所時代における漢籍の目録・分類に直接たずさわったことから説き、中国の文献学に取り組むためにはどうあるべきか、漢籍の分類とは何か。中国における文献学、特に清朝時代の文献学について、四庫提要についての解説からさらに、漢籍をとりあつかうものは中国における版本、すなわち宋元版、明版、清版等の諸版に対する研究をつむべきで、さらに中国の漢籍になじむためには、少なくとも中国文学、歴史等の素養を養うことが第一であり、また、これらの諸版本をできる限り多く見ることが大切であることを強調された。

次いで中国における文献の整理が、いわゆる清朝の康熙乾隆の二帝の時代にその頂点に達した歴史を述べ、それがいかにわが国の中国の文献に対する研究、あるいは整理に対して影響をあたえたかを克明に説明され、最後に、およそ中国文献をあつかうものは、常に研究者と同様の實力あるいはそれ以上の實力を持たねばならないと、漢籍の整理にたずさわるものの自覚をうながされ、聴衆者に多大の感銘をあたえ午後5時に終了した。

——ご存じですか

国際図書年

1972年はユネスコが提唱する国際図書年（International Book Year）にあたります。これはユネスコの第16回総会（1970年11月）において、図書が人類文化の進歩のために有する重要性、思想の表現のため、社会生活の発展のためにその本質的な役割を果すことを考慮し、ユネスコの目的である、平和・開発・人権の拡張・人種差別・植民地主義の撤廃を実施するための基本的な機能を果すことを考慮し、

1. 1972年を国際図書年として宣言する
2. 図書館の発展をともなう図書の生産と配給
3. 読書習慣の促進
4. 教育、国際理解および平和的協役に役立つ図書

の4項目を主唱し、決議しました。これにもとづいて、わが国でも、ユネスコ国内委員会を中心に、日本図書館協会、書籍出版協会その他関係民間19団体により、国内の事業計画を企画し、すでに1月18日、国際図書年宣言・記念講演会（東京）を開催したのをはじめ図書館会館の建設、図書館記念日（4月30日）、記念論文「情報化社会における図書の重要性」の募集開始（4月）、図書館振興の月（5月）など1972年の1か年にわたり多くの事業を行なう予定です。しかし、ここに提唱された理想・理念は、本年だけで終らせるのではなく、こんども持ち続けることが大事です。

また、国際ドキュメンテーション連盟（FID）、国際図書館協会連盟（IFLA）などの国際団体は、国際図書年を機に「図書憲章」を採択して、その原則の実行を呼びかけています。ここに、その一部を掲げます。